

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科 2年次～
使用教科書	実教出版 新「図説 家庭基礎」				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族、子ども、高齢者、そして社会との関わりについて理解する。
- ② 自立した生活にむけて基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 学習の計画

学期	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前期	1. 自分らしい生き方と家族	・自分らしく生きる・家族に関する法律	10	・授業、実習への参加の仕方や態度 ・ワークシート ・視聴覚教材レポート ・実習作品 ・定期考査 ・長期休業課題
	2. 子どもとかかわる	・子どもの発育と発達・親になること ◎定期考査	10	
	3. 高齢者とかかわる	・高齢者の心身の変化と生活	8	
	4. 社会とかかわる	・支え合う暮らし・社会福祉	2	
	5. 衣生活をつくる	・衣服の機能・性能・計画・管理	5	
○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		・ホームプロジェクト・家庭クラブの理解 ◎定期考査		
後期	5. 衣生活をつくる	・衣生活作品製作	5	
	6. 食生活をつくる	・食品の栄養素と衛生・安全 ・調理実習 ◎定期考査	7 3	
	7. 住生活をつくる	・室内環境と住まいの管理	7	
	8. 消費行動を考える	・主体的な消費行動と契約	3	
	9. 経済的に自立する	・家計と収入・支出 ◎定期考査	10	

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

・学習プリント(毎時間) ・授業プリントファイル(年4回程度) ・実習課題 ・長期休業課題 等

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

6 担当者から一言

必修科目です。出席時数が不足しないよう、授業に出席しましょう。知識を身につけるプリント学習と技術を身につける実習を通し、自分の生活を見直すとともに課題解決の力を付けていきます。

教科 (科目)	家庭 (フードデザイン)	単位数	4単位	学科・学年・コース・組	普通科 3・4年次
使用教科書	実教出版「フードデザイン」				
副教材等	教育図書「知っておきたい食べ物の話」				

1 学習の到達目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 栄養素の種類とはたらきについて理解し、家族の食事摂取基準を把握し、栄養バランスのよい食事計画が作成できる。
- ② 日本の食生活の現状と課題を理解し、将来の食生活を考える力を養う。基本的な調理の知識と技術を養う。

3 学習の計画

学期	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前期	1. 食生活と健康	・ 食事の意義と役割・食をとりまく現状	2	・ 授業、実習への参加の仕方や態度 ・ 実習作品 ・ 実習レポート ・ 調理実技テスト ・ 定期考査 ・ 長期休業課題
	2. 栄養素のはたらきと食事計画	・ 五大栄養素と水・消化と吸収 ・ 食事摂取基準と食事計画・ライフステージと栄養計画 ・ 調理実習	48	
後期	3. 食品の特徴・表示・安全調理の基本	・ 食品の特徴と性質・食品の生産と流通 ・ 食品の選択と表示・食品の衛生と安全	36	
	4. 料理様式とテーブルコーディネート	・ 調理とおいしさ・調理操作・調味操作 ・ 料理様式と献立	25	
	5. フードデザイン実習	・ テーブルコーディネート	5	
	6. 食育	・ 献立作成 ・ 食育の意義と推進活動 ・ 調理実習	20	

計 140 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

・学習プリント (毎時間) ・授業プリントファイル (年4回程度) ・実習課題 ・長期休業課題 等

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につけている。	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身につけている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身につけている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけている。

6 担当者から一言

家庭基礎の応用発展科目であり、教科書の内容はより難しいものが含まれます。教科書の学習と、献立作成などの実習、調理実習を行い、食に関する知識と技術を身につけます。

教科(科目)	家庭(ファッション造形基礎)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科 3・4年次
使用教科書	実教出版「ファッション造形基礎」				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得する。
- ② ファッション造形の基礎的な能力と態度を身につける。

3 学習の計画

学期	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	1. 衣服の構成	・人体と衣服・立体構成衣服と平面構成衣服	5	・授業、実習への参加の仕方や態度 ・実習作品 ・実習レポート
	2. 衣服の素材	・衣服素材の種類、性能と選択	5	
	3. 洋服の製作	・洋服製作の基礎	5	
		・基礎縫い(巾着袋製作等) ・アウターパンツ製作	15	
後期	4. 和服の製作	・和服製作の基礎 ・じんべい上衣製作	5 30	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

授業プリントファイル、実習作品、実習レポート

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
衣服の構成・材料・製作について関心をもち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的にとりくむとともに、衣服を創造的に製作する態度を身につけている。	衣服の構成・材料・製作について、課題を見だし、創造的に思考を深め、創意工夫し表現する能力を身につけている。	衣服の構成に関する実習や材料に関する実験などを通じ必要な技能を習得している。 製作題材をふまえた技法を用い、衣服を製作する技術を身につけている。	衣服の構成・材料・製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につけている。

6 担当者から一言

被服製作に関する基礎的な知識と技術をじんべい製作を通して学んでいきます。  
作品は必ず完成したものを提出してください。作業が遅れがちな人は、昼休みや放課後に補習を行います。

教科(科目)	家庭(子どもの発達と保育)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科 3・4年次
使用教科書	実教出版「子どもの発達と保育」				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。
- ② 乳幼児の健全な成長に関心をもち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。

3 学習の計画

学期	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	1. 子どもの発達の特徴	・発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境 ・児童観と発達観	5	・授業、実習への参加の仕方や態度 ・実習作品 ・実習レポート ・定期考査
	2. 子どもの発達過程	・子どもの発育・子どもの精神発達 ・人間関係の発達 ・実習・作品製作	20 10	
後期	3. 子どもの生活	・生活と養護・子どもの遊び ・生活習慣の形成・健康管理と事故防止	15	
	4. 子どもの保育	・保育の意義と重要性・家庭保育と集団保育 ・保育の方法	10	
	5. 子どもの福祉	・子どもの福祉・子育て支援 ・実習・作品製作	5 5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

授業プリントファイル、実習作品、実習レポート

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達や子育て支援について関心をもち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通して、子どもの発達の特徴や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識を身につけている。

6 担当者から一言

家庭基礎の応用発展科目であり、教科書の内容はより難しいものが含まれます。教科書の学習と、壁面構成やおもちゃの製作、離乳食調理などの実習を行い、子どもに関する知識と技術を身につけます。

教科(科目)	家庭(服飾手芸)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科 3・4年次
使用準教科書	主婦の友社 はじめての「ぬう」と「あむ」(準教科書)				
副教材等	なし				

## 1 学習の到達目標

手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

## 2 指導の重点

- ① 服飾手芸の技法などに関する知識と技術を習得する。
- ② 手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する力と実践的な態度を身につける。

## 3 学習の計画

学期	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	1. 手芸の種類と特徴 2. 手芸の変遷 4. 手芸品の製作	・手芸の種類と特徴・地域の伝統文化	5	・授業、実習への参加の 仕方や態度 ・実習作品 ・実習レポート
		・手芸の起源から現在までの変遷	5	
		・パッチワーク作品づくり	5	
		・刺しゅう作品づくり	15	
後期	3. 服飾材料としての各種手芸の技法 4. 手芸品の製作	・マスコットづくり	5	
		・刺しゅうや編み物等の技法	5	
		・テディベアづくり	15	
		・編み物作品づくり	10	
		・小物づくり	5	

計70時間(50分授業)

## 4 課題・提出物等

授業プリントファイル、実習作品、実習レポート

## 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
手芸の種類と特徴、変遷、技法について関心を持ち、手芸品を創造的に製作しようとする意欲と態度を身につけている。	手芸の種類と特徴、変遷、技法について課題を見だし、創造的に思考を深め、創意工夫し表現する能力を身につけている。	手芸の各種技法を用いて、美しくかつ創造的に表現する技術を身につけている。	手芸の種類と特徴、変遷、各種技法などに関する知識を身につけている。

## 6 担当者から一言

手芸に関する基礎的な知識と技術を、各種手芸作品の製作を通して学んでいきます。  
作品は必ず完成したものを提出してください。作業が遅れがちな人は、昼休みや放課後に補習を行います。

教科(科目)	家庭(生活と福祉)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科 3・4年次
準教科書	実教出版 「生活と福祉」 (準教科書)				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 高齢期にいたるまでの健康づくりについて考えさせるとともに、ライフステージごとの健康管理について、具体的な事例を通して理解する。
- ② 高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて理解させ、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。
- ③ 地域の高齢者の生活に関心をもち、高齢者と積極的にかかわり、適切な生活支援や介護ができたり、福祉の充実に向上をめざしたりすることのできる能力と実践的な態度を身につける。

3 学習の計画

学期	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	1. 人の一生と生活・健康	・健康の概念 ・ライフステージと健康管理	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、実習への参加の仕方や態度</li> <li>・ワークシート</li> <li>・視聴覚教材レポート</li> <li>・実習作品</li> <li>・定期考査</li> </ul>
	2. 高齢化の現状と高齢者の特徴	・高齢化の現状 ・高齢者の心身の特徴と病気	10	
	5. 介護・看護の実習と生活支援	・高齢者の生活課題と施策 ・介護の実習	10	
後期	3. 高齢者の自立生活支援	・自立生活支援の基本となる考え方 ・高齢者介護	10	
	4. 高齢者支援の法律と制度	・社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ ・介護保険制度 ・高齢者支援と地域包括ケアシステム	15	
	5. 介護・看護の実習と生活支援	・看護の実習 ・生活支援	10	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

・学習プリント(毎時間) ・授業プリントファイル(年4回程度) ・実習課題 ・長期休業課題 等

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
高齢者の健康と生活、介護などに関心をもち、高齢者と積極的に関わり、適切な生活援助や介護をしようとする意欲と態度を身につけている。	生活の質を高めるとともに、高齢者の健康管理や自立生活支援について課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	高齢者の健康と生活、介護など、高齢者の健康管理や自立支援に関する技術を身につけている。	高齢者の健康と生活、介護など、高齢者の健康管理や自立支援に関する知識を身につけている。

6 担当者から一言

家庭基礎の応用発展科目であり、教科書の内容はより難しいものが含まれます。教科書の学習と、ベッドメイキングなどの実習を行い、介護と看護に関する知識と技術を身につけます。